

研究課題「愛知県における新生児医療ネットワークの構築に関する検討」

名古屋第二赤十字病院新生児科	田中 太平
名古屋大学医学部附属病院総合周産期母子医療センター新生児部門	早川 昌弘
愛知医科大学周産期母子医療センター	山田 恭聖

平成 24 年度に愛知県周産期医療協議会による助成のもと、愛知県内の新生児医療に関わる医師を中心としたネットワーク、東海 NeoForum を作り、ホームページも作成された。東海 NeoForum では、ネットワーク上の情報交換に加えて、愛知県内の NICU 責任者が一堂に集まって直接意見交換をする貴重な場にもなっている。

■ 意見交換**・ ヘパプラスチンテストの保険収載取り消しについて**

2 年後にヘパプラスチンテストが保険収載から削除されることに決まったが、微量で凝固機能が測定できるヘパプラスチンテストの存続について提言し、新生児関連の各学会からも H30 年度診療報酬改定の要望として働きかけてもらうこととなった。

・ 地域連携診療計画加算について

退院支援加算 3 に加えて地域連携診療計画加算が算定できるようになったが、それに関する情報交換を行い、東海 Neoforum HP にも情報がアップされた。

・ ノロウイルスの pseudo-outbreak について

5 月に 4 名の胃腸炎症状を呈する児が出たため、ノロウイルス抗原の検査を行ったところ陽性となった。全入院患者について、直採による便検査では 33 名中 23 名が抗原陽性と判定されたため一時病棟閉鎖を行った。後日、抗原検査を再検したところ全員陰性で、消化器症状を認めた 4 名についてもノロウイルスの PCR 検査が全例陰性（外注検査）だったことから pseudo-outbreak と判断した。ただ、名古屋市衛生研究所でノロウイルスの real time PCR を全員に対して再検したところ、2 名（無症状）から、極微量のウイルスが、検出されたため pseudo-outbreak の中に不顕性感染の児がいたことが、後日判明した。なお、抗原検査で偽陽性となった理由は、検体の採取量が多かったためと推論された。

・ 強化母乳粉末 HMS のコスト算定について

強化母乳粉（HMS）のコストについて、家族負担か病院負担かどちらを選択しているのか、情報交換が行われた。このディスカッションを契機として厚労省保険局に働きかけをしたところ、強化母乳粉末のコストを食事療養費として算定できることが明文化され、家族負担を減らすことができた。

HMSは病院が購入：食事療養費 640円/回 + 特別食加算 76円/回 合計716円/回×3回/日が請求できる。

- ・ NICU での PICC 抜去の実施者について

PICC の抜去を医師、看護師どちらが抜去しているかという質問に対して、医師が実施（5 施設）、看護師が実施（2 施設）と分かれていた。

- ・ 18 トリソミーで気管切開を行っている児に関する質問

気管切開を行っている 18 トリソミーについて、「気管カニューレを抜去したいと家族が希望しているが、それに関するセカンドオピニオンを受けてもらえる病院があるか」という質問があった。

■ 情報交換

- ・ 平成 28 年度大規模地震時医療活動訓練への協力

訓練直前での通知となったが、訓練参加への依頼と訓練メッセージの確認について報告をしてもらった。

- ・ MRSA の保菌率が上昇に伴う院外搬送受け入れ停止について

MRSA 保菌率が上昇したため、短期的に院外受け入れを停止した施設があった。

- ・ 東海小児呼吸管理懇話会の開催について

東海小児呼吸管理懇話会に関する情報が寄せられた。

6 月 25 日 名古屋第二赤十字病院、3 月 4 日 大同病院において開催された。

- ・ 名古屋市の小児在宅支援マップについて

星ヶ丘マタニティ病院の浅井隼人先生が中心となった製作委員会が1年ほどかけて作成した「名古屋市の小児在宅支援マップ」に関する情報が寄せられた。名古屋市内各区の担当療育センター、行政の窓口、訪問看護ステーション、訪問リハビリ、ホームヘルプ等で小児の重症児でも利用できる施設が掲載されている。（星ヶ丘マタニティ病院のHPからPDF版がダウンロード可能）

- ・ 小児周産期医療従事者対象の災害研修会

日本集団災害医学会で開催された災害研修会に関する情報が寄せられた。

■ 多施設共同研究

- ・ 早産児の神経学的予後と頭部 MRI 所見—愛知県コホート研究（名古屋大学）

2005 年～2008 年に出生した在胎 30 週未満の早産児 846 名に関する検討。生存率 88%、脳室周囲白質軟化症 5.2%、脳出血 3 度以上 3.8%。6 歳まで追跡した 314 名については、運動障害 14%、知的障害 25%、行動障害 20%、てんかん 5%、リハビリ施行例 22%、失明 0.3%、補聴器を必要とする難聴 1.3%、221 名で WISC-3 知能検査が施行され、全検査 IQ は平均 (SD) 86.4(16.3)、在胎週数と全検査 IQ は正の相関を示した。研究結果は日本小児神経学会で発表され、東海 Neoforum の HP にもアップされた。

- ・ 愛知県小児医療施設におけるカフ付き気管切開チューブの使用状況の一次調査（愛知医科大）

東海 Neoforum に所属している施設に対して、カフ付き気管切開チューブの使用状況について

て、アンケート調査が行われた。ご協力いただいた施設は 20 施設で、調査期間中に気管切開を行った総数は 143 人、気管切開を行った時期は、1 歳までが 82%、2～5 歳までが 6%、6 歳以上が 12%であった。気管切開を行ったもののうち、カフ付気管チューブを使用した症例は 9.1%であった。カフ付気管切開チューブの管理としては、カフ圧は 15-30cmH2O で行っており、調節は 1 日 1 回から不定期で行っている施設と様々であった。利点は、誤嚥防止、喉頭気管分離術の回避、リークの減少。欠点はサイズが限られている、チューブの交換が困難なことがあったなどの報告があったが、有害事象の報告は無かった。研究結果は日本新生児学術学会で発表された。現在 2 次調査の準備を行っている。

- ・ **新生児慢性肺疾患に合併する肺高血圧症のコホート調査（藤田保健衛生大学）**

愛知県内の NICU に入院した極低出生体重児について、「慢性肺疾患に続発する肺高血圧症についての実態調査」が行われ、東海小児肺高血圧研究会で発表された。来年度もさらに調査研究を行う予定としている。

- ・ **ビタミン K 予防投与に関する検討（名古屋第二赤十字病院）**

愛知県内の産婦人科、小児科施設に対して、ビタミン K の予防投与方法ならびにビタミン K 欠乏性出血症についてアンケート調査を行った。

- **資料の共有 学会発表スライド**

- ・ 脳内出血に留意した循環管理で認められた循環指標の差違
- ・ high flow nasal cannula に関する後方視的検討
- ・ 当院における腎移植後妊婦 60 例の検討
- ・ 愛知県早産児 6 歳の MRI と予後について
- ・ 早産児の発達を促す保育環境の最適化 光環境・子宮環境の視点から
- ・ 当院 NICU で経験したノロウイルスの pseudo-outbreak

- **本日開催される全体会議の議題**

- ・ 各施設における多剤耐性菌の保菌状況について
- ・ 2016年度に実施した共同研究に関する報告
- ・ 愛知県コホートでの新生児慢性肺疾患に関連する肺高血圧症の多施設共同前方視的観察研究
- ・ その他